

=====  
一般社団法人日本アセットマネジメント協会  
J A A Mメールマガジン (2023年度第17号)  
2024.2.10発行  
=====

今回のメールマガジンでは、被災地域の3浄水場施設の調査・対応にあたっていただいた株式会社柿本商会の徳田真一郎様からご報告いただきます。

株式会社柿本商会 白山営業所長 徳田真一郎

この度の地震で被災された方々には心からお見舞いを申し上げますとともに、地元企業として復興に協力していただいている皆様には感謝を申し上げます。

弊社は本社が石川県金沢市にある企業であります。1月1日の地震当日、私は実家のある石川県南部の小松市に帰省しておりました。16時06分の1回目の地震は揺れたなあと言う感覚でしたが、16時10分の本震と呼ばれる地震の時は立っているのがやっとの揺れでした。テレビで震源地は能登、最大震度は7と確認するや否や間髪入れずに津波警報が発報されました。実家が海に比較的近いこともあり、急いで山の方面に車で向かいましたがすぐに大渋滞が発生しました。山へ繋がるテールランプの異様な光景は今でも忘れられません。

弊社は今回調査に当たった能登町様とも特に上水道施設について所縁が深く、1月1日に弊社担当者から上水道の担当者様へ連絡を入れるも、連絡が付きません。ようやく連絡がついても役所の方々は自身も被災者でありながらも人命救助や避難所での対応を最優先とし、水道施設の状況が把握できていない状況でした。

現場に向かうにも道路が寸断されていることが報道されており、しばらくは電話で応急処置の対応を取るしかありませんでした。そこへ1月6日にJAAMから能登町支援についての依頼を受け、1月10日、12日、17日の3日間で浄水場3か所の調査を行いました。

2つの浄水場はなんとか手動で水を作ることができており、給水拠点となっておりました。しかし、残りの1か所は池の躯体が破損し、漏水により稼働することが出来ませんでした。

後日、自動運転ができるところまで仮設復旧させましたが、今回の地震は3~6千年に一度とも言われる地盤の隆起等により、施設よりも管路へのダメージが大きく、範囲が広いことから、現時点でも断水箇所が多数あります。

今後は管路が復旧していくと共に更に遠方へ送る送水施設の調査・復旧も始まります。これからもJAAM会員として皆様と協力し、一日も早い「北陸」の復興に努めて参ります。